

インド、政策金利を引下げ

1年8カ月ぶりに金融政策スタンスを「緩和」に転換

ご参考資料 2015年1月16日

インド準備銀行(RBI、中央銀行)は1月15日の緊急会合で、政策金利(レポ金利)を0.25%引下げ、7.75%とすると発表しました。インドの金融政策の転換と今後の見通しについて、ご説明します。

政策金利を7.75%に引下げ

1月15日、RBIは緊急の金融政策決定会合を開催し、政策金利であるレポ金利を8.00%から7.75%に引下げることを選択しました。RBIが金融市場から資金吸収を行う際に適用するリバース・レポ金利も同様に0.25%引下げ、6.75%としました。

ラジャンRBI総裁は、「昨年9月以降、野菜や果物の価格が想定以上に下落してきたこと、原油を中心とした国際的な商品市況の大幅な下落から、インフレ圧力が低下したため」と今回の利下げの理由を説明しています。

金融政策の転換

ラジャン氏は、2013年9月にRBI総裁に就任して以降、3回の利上げを行い、物価上昇の抑制に取り組んできました。RBIは消費者物価指数(CPI)上昇率を、2015年1月までに8%、2016年1月までに6%とする目標を掲げてきましたが、2014年12月のCPI上昇率は5%となり、2016年の目標を下回る水準まで低下しました。

今回の利下げ発表において「追加緩和の鍵は、インフレ圧力の低下が確認されること」と、更なる利下げの可能性も示唆し、これまでの金融引締めから緩和へのスタンスの転換が示されました。

今後の見通し

1月15日のインドの株式市場(CNX Nifty指数)は8,494.15ポイント(前日比2.6%上昇)、債券市場(10年国債利回り)は7.697%(前日比0.077%低下)、インドルピー(100ルピーあたり)は1.613米ドル(前日比0.3%上昇)となり、今回の政策金利引下げを市場は好感しています。

原油価格下落を受けた原油等の輸入金額の減少によって今後経常収支が改善することも期待され、引続きインドのファンダメンタルズは良好に推移すると見ております。また、追加利下げ観測が株式市場と債券市場両方の支援材料になると考えています。

※当資料はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社が情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。※当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。

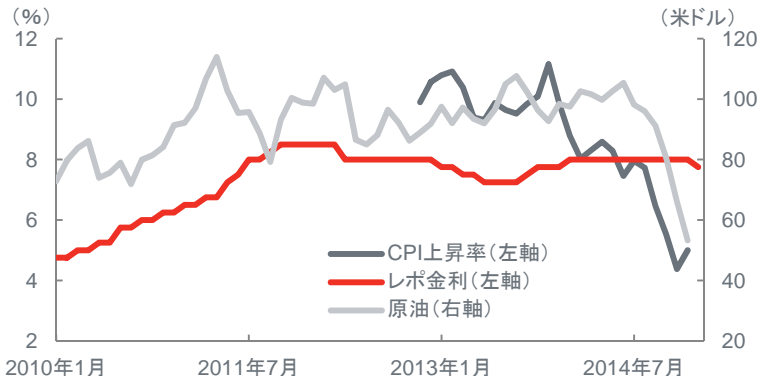
英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社とは関係がありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

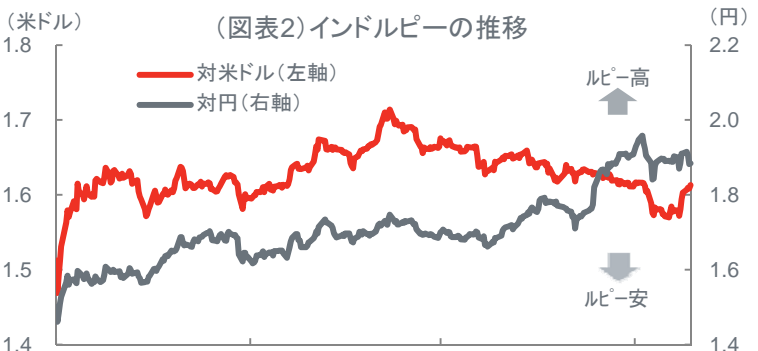
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第379号/加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

150116(06)

(図表1) インドのCPI上昇率、レポ金利および原油価格推移

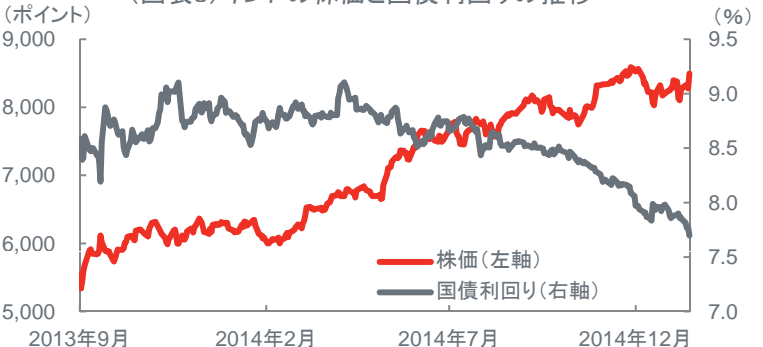


出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。期間: 2010年1月~2015年1月。CPI上昇率は前年同月比、2012年11月から2014年12月まで。原油はWTI(1バレル当たり)を使用、2014年12月まで。



出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。期間: 2013年9月2日~2015年1月15日。対米ドルは100ルピー当たりの推移。

(図表3) インドの株価と国債利回りの推移



出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。期間: 2013年9月2日~2015年1月15日。株価はCNX Nifty指数、国債はインド10年債。